

科目名	ドラマで学ぶ英語の世界 ～シェイクスピアから鬼滅の刃まで～				担当者	ナガノ アツシ 永野 篤						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスマワーまたは、nagano.atsushi@seiwa.ac.jp へのメール										
専門的 学習成果	①	言語としての英語の全体像の概略について説明できる。										
	②	現代英語における言語におけるリスニング力を向上させる。										
	③	現代英語コミュニケーションに求められる単語、文法力を向上させる。										
	④	英語によるドラマの視聴を通じて英語圏の文化、世界観について洞察できる。										
汎用的 学習成果	(1)	英語に関する歴史・発展の知識を身に付け、社会的自立に必要な知識を修得し、実践に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	英語の単語力の向上を通じて、場面に応じた単語選択を可能とする。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(3)	英語の文法力の向上を通じて、場面に応じた表現の違いの認識を可能とする。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(4)	英語のリスニング力の向上を通じて、シチュエーションに応じた使い分けについての理解を可能とする。(専門的学習成果①②③に関連)										
授業概要	グローバル化の進展とユビキタス社会の発展に伴い、人類共通言語の一つとしての英語の重要性はこれまでに高く高まっている。簡単なオーラルコミュニケーションから難解な英語論文でさえ、AIによる自動翻訳によってある程度意味を知ることができる。しかし、異なる言語の背景となる文化的相連の理解や、我々の考え方、感性を規定する枠組みの一つである言語の性質を知ることが自らの経験によって身につけていく。本授業では、ドラマ等を通じて英語という非母国語に触れ、多言語、多文化の理解を深めるものである。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	100	各回実施し、各回6.6%を配点する。								
汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (4) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①オンラインを介した資料配布、小テスト、実力査定アンケートを行うため、インターネットに接続でき、かつ、操作が容易なスマートフォン、タブレット、ノートPCなどを持ち込んでください。 ②小テストは原則授業中に行い、集計後、速やかにフィードバックを行う。受講者全体の中に占める自身のポジションを確認し、かつ、誤った記憶や理解を正し、資格取得へ向上する姿勢を身に着けることを期待しています。 ③予習復習には、それぞれ1時間程度かけることが期待される。難易度は高くないが、繰り返しの発声練習が必要とされることが想定されるため、相応の空間を確保できる環境を整えるように準備してください。 ④紙または電子形式による辞書を携帯すること。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	現代英語が成立するまで。ドラマ①視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果 予習復習の内容	現代英語成歴史を俯瞰し、かつ英語ドラマ(アメリカ)を視聴し、言葉のスピード感に慣れる。 現代英語について事前課題に基づいた、単語類の理解・記憶に努める。	
2回	授業内容	現代アメリカ英語のリスニング。ドラマ②視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果 予習復習の内容	英語ドラマを視聴し、言葉のイントネーションに慣れる。 現代英語について事前課題に基づいた、単語類の理解・記憶に努める。	
3回	授業内容	現代アメリカ英語のリスニング。ドラマ③視聴「鬼滅の刃」を予定	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果 予習復習の内容	英語に吹き替えられた日本のドラマを視聴し、翻訳された言語に慣れる。 現代英語について事前課題に基づいた、単語類の理解・記憶に努める。	
4回	授業内容	現代英語の基礎となった近代イギリス英語(発音)。ドラマ④視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果 予習復習の内容	英語成立の歴史と、英単語類語のニュアンスの違いについて理解を深める。 事前課題に基づいた、英語文章を暗唱できるように努める。	
5回	授業内容	現代英語の基礎となった中世イギリス英語(単語)。ドラマ⑤視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果 予習復習の内容	英語成立の歴史と、英単語類語のニュアンスの違いについて理解を深める。 事前課題に基づいた、英語文章を暗唱できるように努める。	
6回	授業内容	現代英語の基礎となった中世イギリス英語(定型詩)。ドラマ⑥視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果 予習復習の内容	英語成立の歴史と、英単語類語のニュアンスの違いについて理解を深める。 事前課題に基づいた、英語文章を暗唱できるように努める。	
7回	授業内容	現代英語の基礎となった中世イギリス英語(抑揚)。ドラマ⑦視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果 予習復習の内容	英語成立の歴史と、英単語類語のニュアンスの違いについて理解を深める。 事前課題に基づいた、英語文章を暗唱できるように努める。	
8回	授業内容	中世イギリス英語の現代アメリカへの適用。ドラマ⑧視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果 予習復習の内容	イギリス英語とアメリカ英語の違いをリスニングから直感的に理解する。 事前課題に基づいた、英単語を理解・記憶する。	
9回	授業内容	中世イギリス英語の現代アメリカへの融合。ドラマ⑨視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果 予習復習の内容	イギリス英語とアメリカ英語の違いをリスニングから直感的に理解する。 事前課題に基づいた、英語文章の文法を理解し構造を記憶する。	
10回	授業内容	現代アメリカ英語の二者間の会話(プライベート)。ドラマ⑩視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果 予習復習の内容	アメリカ英語による親密な二者間のコミュニケーションを理解する。 事前課題に基づいた、英語のダイアログを理解し、記憶する。	
11回	授業内容	現代アメリカ英語の二者間の会話(社交)。ドラマ⑪視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果 予習復習の内容	アメリカ英語による二者間のコミュニケーションを理解する。 事前課題に基づいた、英語のダイアログを理解し、記憶する。	
12回	授業内容	現代アメリカ英語のスピーチ。ドラマ⑫視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果 予習復習の内容	アメリカ英語によるスピーチの形式と内容を理解する。 事前課題に基づいた、英語スピーチの理解・記憶に努める。	
13回	授業内容	現代英語による、口頭によるコミュニケーション。ドラマ⑬視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果 予習復習の内容	ネイティブ向けに作成された英語ドラマを字幕なしで少し理解する。 事前課題に基づいた、英語のダイアログを理解し、記憶し、暗唱する。	
14回	授業内容	現代英語による、口頭によるコミュニケーション。ドラマ⑭視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果 予習復習の内容	ネイティブ向けに作成された英語ドラマを日本語字幕なしである程度理解する。 事前課題に基づいた、英語のダイアログを理解し、記憶し、暗唱する。	
15回	授業内容	現代英語による、口頭によるコミュニケーション。ドラマ⑮視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。
	学習成果 予習復習の内容	ネイティブ向けに作成された英語ドラマを日本語字幕なしで、視聴できる。 事前課題に基づいた、英語のダイアログを理解し、記憶し、暗唱する。	

科目名	簿記会計学				担当者	永野 篤						
区分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。											
専門的 学習成果	①	企業会計における簿記の必要性を述べることができる。										
	②	複式簿記の記帳ルールを説明できる。										
	③	財産管理ができるようになる。										
	④	財務諸表（貸借対照表と損益計算書）の作成と経営分析ができるようになる。										
汎用的 学習成果	(1)	簿記を学ぶことにより、社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し活用できる。（専門的学習成果①②③④）										
	(2)	財産管理と財務諸表の作成並びに経営分析を学ぶことにより、社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得し、実践につなげることができる。（専門的学習成果③④）										
授業概要	簿記とは、一定の法則にもとづいて、日々の取引および財産の増減変化を正確明瞭に記録・計算・整理するシステムである。その目的は企業の財政状態と経営成績を明らかにし企業経営者並びに利害関係者に有用な会計情報を提供することにある。企業会計の仕組みをできるだけやさしく解説し、簿記会計知識が身に付く講義をする。具体的にはまず簿記の成り立ちからはじめて、複式簿記と家計簿の違い、記帳方法（ルール）を詳しく学ぶ。次に簿記上の取引項目や決算手続きを学び、財務諸表（貸借対照表と損益計算書）を作成し分析する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	10	「複式簿記と家計簿」について内容・根拠・独創性で評価を行う。								
		小テスト	80	10回実施し、各回10%を配点とする。1～3回分の講義内容の理解の程度を評価する。								
	平常点	10	授業内容へのフィードバック、疑問点の解決、貢献・意欲を評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③及び④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	登川雄太	『世界一やさしい 会計の教科書 1年生』				ソーテック社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①簿記は演習が不可欠である。事前学習としてテキストをよく読んでくること。（予習：週1時間程度）事後学習としては、テキスト並びに指定された範囲の演習問題を解くこと。（復習：週3時間程度）電卓は必ず持参すること。 ②提出されたレポートは全体的な講評を行い、添削して返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	会計と株式会社について知る	疑問点の解決、論点についての確認を行う
	学習成果	会計、企業会計の特徴、株式会社について理解し説明できる	
	予習復習の内容	テキスト p10-20の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
2回	授業内容	財務諸表の意義と構成について知る	疑問点の解決、論点についての確認を行う
	学習成果	財務諸表の種類と、それぞれの特徴について知る	
	予習復習の内容	テキスト p25-30の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
3回	授業内容	貸借対照表とキャッシュフローの関係について知る	小テスト (1) 企業会計の特徴、財務諸表の種類について確認する
	学習成果	貸借対照表の考え方と変化の様相について説明できる	
	予習復習の内容	テキスト p32-50の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
4回	授業内容	損益計算書とキャッシュフローの関係について知る	小テスト (2) 貸借対照表と損益計算書の構成について確認する
	学習成果	損益計算書の考え方と貸借対照表・キャッシュフローの関係を説明できる	
	予習復習の内容	テキスト p52-57の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
5回	授業内容	簿記の基本をマスターする (1)	疑問点の解決、論点についての確認を行う
	学習成果	簿記の考え方と、会計における取引、仕訳の簡単なしくみについて説明できる	
	予習復習の内容	テキスト p64-80の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
6回	授業内容	簿記の基本をマスターする (2)	小テスト (3) 現金を基本とした仕訳について確認する
	学習成果	簿記の考え方と、会計における取引、仕訳の簡単なしくみについて説明できる	
	予習復習の内容	テキスト p81-90の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
7回	授業内容	利益の考え方を学ぶ (1)	小テスト (4) 現金および非現金による取引の仕訳について確認する
	学習成果	会計における利益の考えかたを知る (発生主義、実現主義、期間的対応)	
	予習復習の内容	テキスト p92-111の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
8回	授業内容	利益の考え方を学ぶ (2)	小テスト (5) 利益計算に関する内容を確認する
	学習成果	会計における利益の考えかたを知る (減価償却、引当金、取得原価・時価原価)	
	予習復習の内容	テキスト p113-142の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
9回	授業内容	実際の貸借対照表と損益計算書の読み方を知る	小テスト (6) 安全性分析の内容について確認する
	学習成果	実際の貸借対照表と損益計算書から読み方について学ぶ	
	予習復習の内容	テキスト p144-167の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
10回	授業内容	キャッシュフロー計算書のメカニズムについて知る	小テスト (7) キャッシュフロー計算書のメカニズムについて確認する
	学習成果	利益とキャッシュ、財務3表の関係、間接法、営業活動によるCFの意義について説明できる	
	予習復習の内容	テキスト p168-198の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
11回	授業内容	企業グループの連結財務諸表を学ぶ	小テスト (8) 連結財務諸表における論点について確認する
	学習成果	親会社と子会社、企業集団と連結財務諸表、連結財務諸表のイメージについて学ぶ	
	予習復習の内容	テキスト p200-220の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
12回	授業内容	会計用語をおさえてニュースの深掘りを行う	小テスト (9) 現代会計の論点について確認する
	学習成果	国際会計基準とIFRS、減損損失、のれん、税効果会計について知る	
	予習復習の内容	テキスト p222-250の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
13回	授業内容	投資にも役立つ企業の財務分析を行う (1) 収益性	疑問点の解決、質疑応答の活発さを確認する
	学習成果	財務分析における収益性分析の種類と意味について説明できる	
	予習復習の内容	テキスト p252-260の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
14回	授業内容	投資にも役立つ企業の財務分析を行う (2) 安全性	疑問点の解決、質疑応答の活発さを確認する
	学習成果	財務分析における安全性分析の種類と意味について説明できる	
	予習復習の内容	テキスト p262-264の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
15回	授業内容	企業分析を通じて会計の基本をマスターする	小テスト (10) 授業を通じて学んだ会計に関する全般的概念・用語の定着について確認する
	学習成果	財務分析における安全性分析の種類と意味について説明できる	
	予習復習の内容	テキスト p265-269の予習を行い、復習によって全体的内容の理解を深め用語の記憶を確実なものにさせる	

科目名	日本語と英語で学ぶ簿記会計の原理				担当者	永野 篤						
区分	選択	2	単位	授業回数	8	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期集中
授業時間数	15 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。											
専門的 学習成果	①	企業活動における簿記・会計の意義について述べるができる。										
	②	財務諸表のメカニズムについて日本語と英語の概念を通じて複合的に理解し説明できる。										
	③	現代社会において国際社会に求められる会計知識について英語を通じての最低限の知見を得ることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	日本語と英語を通じて簿記・会計を学ぶことにより、国際的・社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①②③)										
	(2)	日本語と英語を通じて簿記・会計を学ぶことにより、国際的な文化の違い、現象理解の相違を知り、国際人・職業人としての実践につなげることができる。(専門的学習成果③)										
授業概要	近代において、簿記・会計は西洋社会から輸入された仕組み、概念である。そのため、用語の日本語訳を通じてそのメカニズムを日本語ネイティブが直観的理解をすることには困難が生じている。本授業は、こうした課題を克服するために日本人にも比較的馴染みやすい英単語・概念を用いて、簿記・会計のしくみについて深い理解を行うことを目指している。簿記上の取引における簡単な仕分けから、貸借対照表、損益計算書、そして国際基準に基づいて作成された実際の財務諸表を検討することで、今日の企業会計の実相についての学びを深める。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		小テスト	90	6回実施し、各回15%を配点とする。1～2回分の講義内容の理解の程度を評価する。								
		平常点	10	授業内容へのフィードバック、疑問点の解決、貢献・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	大津広一、我妻ゆみ	『会計プロフェッショナルの英単語100 世界の一流企業はこう語る』				ダイヤモンド社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①簿記検定Ⅰまたは簿記会計学の受講および授業内容への適切な理解があること、或いは日商簿記3級合格レベル知見を持っていることを前提に授業は行われる。(予習：週1時間程度) 事後学習としては、テキスト並びに指定された範囲の演習問題を解くこと。(復習：週3時間程度) 電卓は必ず持参すること。 ②提出されたレポートは全体的な講評を行い、添削して返却する。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	英語で会計を学ぶ意義を知る	疑問点の解決、論点についての確認を行う
	学習成果	借方、貸方、会計の5つの要素について英語で理解し説明できる	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
2回	授業内容	貸借対照表(バランスシート)の借方の会計英単語を学ぶ	
	学習成果	流動資産および固定資産にかかる用語について理解を深める	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
3回	授業内容	貸借対照表(バランスシート)の貸方の会計英単語を学ぶ	
	学習成果	流動負債、固定負債、純資産にかかる用語について理解を深める	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
4回	授業内容	損益計算書(プロフィット&ロス・ステートメント)の会計英単語を学ぶ(1)	小テスト(1) 貸借対照表の用語について確認する
	学習成果	売上、費用、利益にかかる基本的用語について理解を深める	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
5回	授業内容	損益計算書(プロフィット&ロス・ステートメント)の会計英単語を学ぶ(2)	小テスト(2) 損益計算書の用語について確認する
	学習成果	持分法による投資利益・損失、構造改革費用、減損損失な発展的内容について理解を深める	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
6回	授業内容	紛らわしいことばを整理する	小テスト(3) 紛らわしいことばについて再確認する
	学習成果	Sales, Revenue, Profit, Profit, Income, Margin, Earnings, Return, Cost, Expense, Expenditure, Assets, Equity について整理する	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
7回	授業内容	数字にまつわる表現を整理する	小テスト(4) 数字にまつわる表現について再確認する
	学習成果	長い数値の読み方、小数点読み方、分数の読み方、加減乗除の読み方、四捨五入の読み方、累乗の読み方、単利 vs 複利、プラス、マイナスの正しい表現について整理する	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
8回	授業内容	企業活動における重要な表現と決算書類に関する知識を学ぶ	小テスト(5) 授業の総合的内容を確認する
	学習成果	ステークホルダー、主要な業界、管理会計、財務諸表の各種呼び方、単体・連結、決算期のチェック、インターネットによる決算書類の入手方法について学ぶ	
	予習復習の内容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
9回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
10回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
12回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
14回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
15回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	新聞を読む				担当者	川 辺 博						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	1年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	kawabe.hiroshi@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。											
専門的 学習成果	①	新聞を読んで活用するための技術を身につける。										
	②	時事問題に関心を持ち、自分自身に関連づけてとらえ、自分なりの考えが発表できる。										
	③	「ニュース時事能力検定」受検を目指した取り組みができる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会の課題を認識することで、業務においても私生活においても自立した社会人としての役割を果たすことができる。(専門的学習成果の①②③に関連)										
	(2)	現代社会の課題について深く考察し、立場の異なる相手とも議論できる。(専門的学習成果の②に関連)										
	(3)	現代社会の課題に取り組んで地域社会の活動に貢献できる。(専門的学習成果の②に関連)										
授業概要	新聞は世界を知るための良質のメディアだが、読むには慣れとコツが必要である。この授業では各自が毎週スクラップ・ブックを作り、記事で取り上げられているできごとについて全体で討議することを通して、社会のしくみと現状、問題点についての理解を深める。また新聞記事のようないわゆる「硬い文章」を読むのに慣れ、さらには自分でも書けるように練習する。「ニュース時事能力検定」の参考書・問題集に取り組み、受検を促す。「新聞は難しいから読まない」という人ほど、むしろ歓迎する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		提出物	50	授業ごとに指定されたテーマにもとづいてスクラップ・ブックを作り、期末に提出する。								
		小テスト	20	ニュース検定や講義内容についての小テストを実施する。								
	平常点	30	授業時間中におこなうスクラップの発表の内容を評価する。									
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③によって評価をおこなう。 (2) は専門的学習成果②によって評価をおこなう。 (3) は専門的学習成果②によって評価をおこなう。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	日本ニュース時事能力 検定協会 (監修)	『2024年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 3・4級対応』				毎日新聞出版						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	池上彰	『池上彰の新聞勉強術』				文春文庫						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①各自で新聞を用意し、スクラップ・ブックを作成すること。作る際の詳細な注意点は、初回のガイダンスで指示する。授業日以外でも新聞やテレビのニュース番組、ネットのニュース・サイトに親しむ必要がある(毎日数十分程度、1週間で4時間程度)。 ②小テストや提出物は返却し、その際に解説をおこなう。											

		授業計画	学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、スクラップ・ブックの作り方と「ニュース時事能力検定」について	「ニュース検定」の例題への取り組みによって評価
	学習成果	新聞というメディアの特性を理解し、スクラップ・ブックを作成する準備ができる。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。	
2回	授業内容	新聞の種類	スクラップの発表によって評価
	学習成果	流通範囲や扱う内容に応じて新聞に多くの種類があることを説明できる。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。ニュース・サイトを閲覧する。	
3回	授業内容	アナログ・メディア(新聞紙)とデジタル・メディア(ニュース・サイト)の特徴	スクラップの発表によって評価
	学習成果	アナログとデジタルの双方の長所と短所を対比して説明できる。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。政治分野の話題についてまとめておく。	
4回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む(1) 政治	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	政治分野の知識を整理し、問題点について論じることができる。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。政治分野の話題を復習する。	
5回	授業内容	一日分の新聞の構成	スクラップの発表によって評価
	学習成果	新聞の「面」ごとの特色を説明できる。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。見出しの特徴を調べておく。	
6回	授業内容	新聞記事の構造、見出しの役割	スクラップの発表によって評価
	学習成果	新聞記事の構造や見出しの役割を説明できる。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。経済分野の話題についてまとめておく。	
7回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む(2) 経済	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	経済分野の知識を整理し、問題点について論じることができる。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。経済分野の話題を復習する。	
8回	授業内容	写真、レイアウト、文字の役割	スクラップの発表によって評価
	学習成果	報道写真に込められた意図に留意しながら「読み解く」ことができる。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。暮らしにかかわる話題についてまとめておく。	
9回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む(3) 暮らし	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	暮らしにかかわる知識を整理し、問題点について論じることができる。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。新聞広告の特徴を調べておく。	
10回	授業内容	新聞広告の特徴	スクラップの発表によって評価
	学習成果	新聞という物理メディアならではの広告の表現手法の特徴を説明できる。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。社会・環境分野の話題についてまとめておく。	
11回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む(4) 社会・環境	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	社会・環境の知識を整理し、問題点について論じることができる。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。社会・環境分野の話題を復習する。	
12回	授業内容	新聞を読み比べる(1) 一般紙どうしの読み比べ	スクラップの発表によって評価
	学習成果	複数紙の読み比べをとおして、報道と世論形成のかかわりを説明できる。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。国際分野の話題についてまとめておく。	
13回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む(5) 国際	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価
	学習成果	国際分野の知識を整理し、問題点について論じることができる。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。国際分野の話題を復習する。	
14回	授業内容	新聞を読み比べる(2) 「日本経済新聞」を読む	スクラップの発表によって評価
	学習成果	「日本経済新聞」の特徴を理解し、活用できる。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。新聞の文体の特徴を調べておく。	
15回	授業内容	新聞記事の文体をまねて記事を書く	スクラップの発表によって評価
	学習成果	新聞記事風の文章が自分で書ける。	
	予習復習 の 内 容	スクラップを作成する。授業全体を振り返り、まとめる。	